

O.A.O

NO.121

2024年 秋冬号

発行 市民ネットワーク・かしわ
2024年12月

代表 林 さえこ

ホームページ <https://www.kashiwa-net.com>



公式LINE

お問い合わせは
電話・公式LINEまたは、
HP問い合わせ
フォームから。
(※FAXはありません。)



「市民ネットワーク・かしわ」は市民の声を議会に届ける地域政党です。仲間を市議会に送り出し、子育て、教育、環境、福祉、防災などの暮らしの課題に取り組んでいます。せっけん運動やこみ問題に取り組んだ生活クラブ生協の組合員が中心となり、1987年5月1日設立。以後4人の議員を市議会に送り出してきました。

文部科学省HP

児童生徒の
問題行動・不登校等
生徒指導上の諸課題に
関する調査の概要



学校に行かない選択

全国で学校に行かない子どもが増えています。10月末、文部科学省が「日本の小中学校における長期欠席者(年間30日以上)の数は約49万人」「そのうち、病気などを欠席の理由としない不登校児童生徒の数は約35万人」という2023年度のデータを公表しました。小学生の47人に1人(2.1%)、中学生の15人に1人(6.7%)が不登校という状態です。

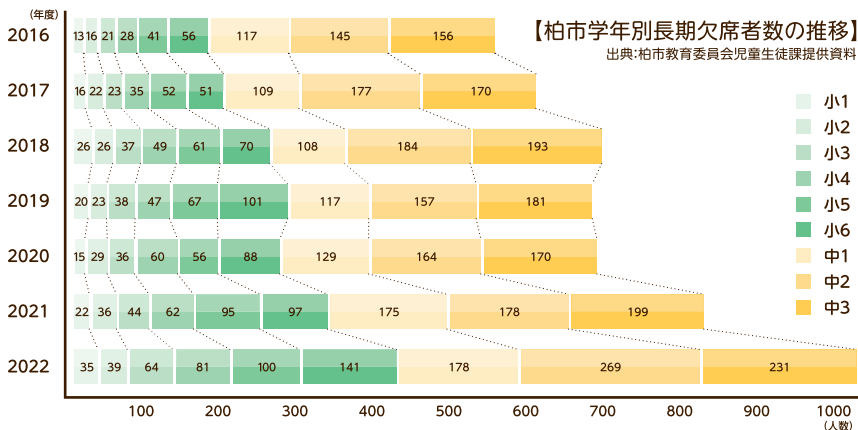
改めて、柏市の不登校の子どもたちの現状と、不登校家庭への支援について調べてみました。

柏市だけでも936人

柏市でも不登校の子どもは増えています。柏市立小学校の2023年度の不登校児童は347人、中学校の不登校生徒は589人、合計で936人でした。全児童生徒数に占める割合は、小学校で1.6%、中学校で5.6%、合計が2.9%です。

この数字はあくまで「病気などを欠席の理由としない年間30日以上長期欠席者」です。30日未満の欠席や教室外登校など「不登校傾向」の子どもはさらに多くいます。

また、グラフのように、長期欠席の子どもは、学年が上がるほど増えていきます。中学校で急増しているようにも見えますが、中学校から不登校が始まった子どもが小学校の頃から不登校傾向だった場合もあり、一人一人のケースで考える必要があります。



不登校のきっかけ

千葉県は今年6月、不登校の子どもや保護者、フリースクールなどを対象に行ったアンケート調査の結果を公表しました。子どもに「学校に行きたくない」と思ったきっかけを聞いた設問の回答を見ても、不登校のきっかけは様々で、複数のきっかけをあげる子どもも多いことがわかります。学校環境だけでなく家庭環境が不登校に関係する場合もあり、一概に理由を分析することはできません。

また、小さい子どもは、「行きたくない」と言いながら玄関で具合が悪くなるなど、自分で自分の心がわからない場合や、モヤモヤを上手く説明できない場合もあります。大事なことは、理由を突き止めることや、問い詰めることではなく、周囲の大人が子どもの気持ちや状態を受け止めることです。

千葉県HP
不登校児童生徒等
実態調査結果



教育機会確保法の制定

2016年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」、通称「教育機会確保法」が成立し、不登校対応指針が大きく変わる節目になりました。

『「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す。』という方針が特に重要です。法制定の翌年に公開された基本指針にも、休養の必要性が明記され、「学校復帰」がゴールではなくなりました。

親が引きずってでも学校に行かせる…なんて昔の話です。学校に行かない選択肢を、保護者や社会が受け入れてきたことから不登校が増えた一面もあり、「不登校」という言葉をネガティブに捉え過ぎないことも重要と考えています。

しかし、実際に我が子が不登校になると、多くの保護者は慌て、焦り、不安になります。特に小学校低学年の子どもには見守りが必要なため、保護者が休職や離職をせざるを得ないケースもあり、深刻です。現実を受け止める間もなく、子どものメンタルケア、学校やスクールカウンセラーとの連絡、支援機関のリサーチなどをするのは大変です。普段から、学校や教育委員会の相談窓口は把握しておきましょう。

公的な支援メニューは?

不登校についてはスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育支援センターの訪問相談支援員に相談することができます。お子さんの状況と希望に合わせて、どのような生活を送っていくのか検討できます。

また、柏市には全中学校に校内教育支援センターがあり、教室に行きたくない子どもは教育支援員から学習指導を受けることができます。学校外では、市内に5か所の教育支援センターがあります。「さぼうの園」では主に学習をサポートしていますが、その他の教育支援センターは自分のペースで通い、過ごすことができる心の居場所です。自習による学習とレクリエーションが行われています。しかし、徒歩で行ける範囲にない、保護者の送迎が難しいなどの理由から、小学生の利用は少ない状況です。今後は各小学校へも校内教育支援センターを設置し、支援員を配置する必要があります。

また、民間のフリースクールや自主的に運営されている親の会などの活動もあり、千葉県が毎年発行しているサポートガイドに概要がまとめてあります。

千葉県の主な
不登校児童生徒
支援について



オンラインの対応

千葉県では、今年度から不登校の中学生向けのオンライン授業配信「エデュオプちば」が開始されました。長期休暇を除く平日に1コマ40分、主要5教科の授業を受けることができます。実際に利用している中学生からも、丁寧な説明でわかりやすい授業との感想を聞いています。不登校の子どもは起立性調節障害の場合も多く、朝はゆとりを持って10:20から開始されています。

また、柏市ではNPO法人eboardと連携し、ICT教材の学びを支援しています。不登校の小中学生は学校から貸与される端末を使って家庭で学ぶことができ、専用のIDをつくることで、担任と学習状況を共有することができます。

多様な選択肢を

小中学生の不登校が増えると同時に、通信制高校の施設数、生徒数も増え続けています。不登校を経験した子どもの進学先としても、全日制の学校からの転校先としても注目を集めています。

日本ではこれまで、同じ年齢、同じタイミングで同じことを学んでいく、画一的な学校教育が進められてきました。多くの子どもに一定の質の教育が担保される利点がある一方、学びのスタイルやスピードが合わない子どもに他の選択肢がない苦しさがありました。

一方、欧米ではさまざまな教育メニューが用意され、自分に合うスタイルを選んで学べる国が多いと聞きます。アメリカでは、障害や宗教上の理由からスポーツや芸能活動の優先まで、様々な理由でホームスクールを選択する家庭が増えています。中には、先天的に高い知的能力を有するギフテッドと呼ばれる子どもも含め、学校よりハイレベルな教育を受ける目的でホームスクールを選択する家庭もあります。

日本の当たり前が世界の当たり前ではありません。日本でも、学校教育制度自体を見直し、学びの選択肢を増やすべきではないでしょうか。



2025年1月開館

白いおうちのまんが図書館



畑に囲まれた
白い壁の
おうちです。

開館に向けて

2025年1月、東武線の線路の脇の、住宅地の路地を入ったところに、小さなまんが図書館を開館します。名前の通り、建物の壁は白く、まわりには畑が広がり、遠くから踏切の音が聞こえる、静かで落ち着いた場所です。

運営委員の自宅の一部を改装し、市民ネットワーク・かしわの事務所兼、まんが図書館とするため、作り付けの本棚を設置し、マンガの提供や見守りボランティアのスタッフを募るなど、開館に向けて着々と準備を整えています。計画では、毎週水曜日と金曜日、10:00～17:00で運営する予定です。

平日の午前中も

柏市には児童センターが7か所ありますが、主に乳幼児と保護者の居場所です。この12月、柏駅東口の「TeToTe」の5階に、市内で初めて「中高生の広場」がオープンしますが、小学生以降の子ども・若者の居場所施設は全体的に少ないと感じています。

民間ボランティアが運営することも食堂やこどもの居場所事業も増えましたが、土日開催や夕方開催が多く、平日の昼間に開いている居場所は少数です。

白いおうちのまんが図書館は午前中から開館する計画です。学校に行きたくない時や、ちょっと誰かと話したい時、気分転換がしたい時など、子どもが1人でも安心して過ごせる場所になればと願っています。

流山のまんが図書館

まんが図書館開設に向けて、すでに流山で運営されていたまんが図書館を見学しました。住宅地の一軒家で水曜日と日曜日、季節によって時間を変更しながら開館しています。利用者は小中学生だけでなく、大学生やシニアの方も多いそうです。学校役員の会議や、相談場所としても利用されています。

玄関横の部屋には健康麻雀用の電動麻雀卓が置いてあります。奥の部屋に入ると壁一面に本棚が。最近のまんがから、今では手に入らない絶版まで多くのまんがが並べられています。将棋やボードゲームもあり、大人が子どもたちに教えながら一緒にプレイすることもあるそうです。見学した日には、数人の子どもが集まり、マンガを読みだり絵を描いたり、思い思いに過ごしていました。

地域の居場所に

流山のまんが図書館では、密室にならないようなレイアウトの工夫や、女性スタッフでの対応など、保護者の抱く『知らない大人のいる場所に子どもを行かせる不安』を払拭できるよう、配慮されていました。誰でも安心して利用できて、多世代が交流できる、地元に愛される居場所となっています。

「白いおうちのまんが図書館」も、安心安全な居場所になるよう、運営していかなければなりません。子どもたちの話し相手や見守りをするボランティアスタッフとしてお力を貸していただける方、ぜひご連絡ください。

市民ネットワーク・かしわ運営委員 石川美和



まんが図書館は2階の一室。
南東向きで日当たりのいいお部屋です。



まだまだ本棚には空きがあります。



まんがを読んだり、宿題をしたり
自由に過ごせる場にしたい。

まんがの
寄付を
お願いします

- ・なるべく全巻が揃っていること
- ・大きな汚れや破れがないこと
- ・小学生が読んで問題ないと判断できる内容であること

まずはお気軽にお問い合わせください。

パソコン修理

家電・照明・配線の問題もお任せ!

修理のお申し込みは
▼こちらから▼

お気軽にご相談ください!

お問い合わせは市民ネットワーク・かしわまで

お見積り無料!



- ✓ 最近PCの動きが遅いなあ
- ✓ Windowsのバージョンアップって何?
- ✓ 古いPCまだ使える?
- ✓ LEDにしたいなあ
- ✓ いくらかかる?



市民インターン募集

お気軽にご相談ください!

「市民ネットワーク・かしわ」は市民の声を議会に届ける地域政党です。活動を体験できる市民インターンを募集します。

学生、パパママ、会社員、シニア…柏市政に関心のある方ならどなたでも大歓迎!

《体験できる主な活動》

議会傍聴、政策研究、広報紙づくり、市政調査、市民相談、SNS 運用、ポスティング、ピラ配布、こども食堂支援、学習支援ボランティア、電磁波測定など

《その他》

・活動期間や活動頻度、体験内容は、本人の希望を元に受け入れ態勢を調整します。
・交通費や必要な活動経費は支給します。

政治って
興味あるけど
難しそう。

私の困りごと
も解決できる?



会員募集中

●正会員:年会費 1,000円 議決権あり ●サポート会員:年会費 無料 議決権なし

会員には、以下のお知らせをお送りします。

- ・市民ネットワーク・かしわ通信OΔO
- ・林さえこの柏市議会Report

カンパによるご支援もお待ちしています。
【郵便振替口座 / 00130-8-71999】

2025年1月

事務所移転&まんが図書館OPENのお知らせ



市民ネットワーク・かしわ&林さえこ事務所

〒277-0863 柏市豊四季631-16
(新柏駅徒歩10分 南柏駅徒歩15分)
TEL:080-7628-7737
水・金 10:00～14:00(※祝日はお休み)
まんが図書館は10:00～17:00

●東武ストア